



梅雨晴れの数日間、夏本番を思わせる強い日差しとなりました。
5月末のオープンスクールでは、沢山の方にお越しいただき、ありがとうございました。子どもたちの学習の様子をご覧になって、いかがでしたか。入学を検討されている皆様には本校の雰囲気を感じていただけたでしょうか。本校はこれからも地域の皆様にオープンな学校を目指してまいります。何かご不明な点などありましたら、お気軽にお問合せください。

学校行事予定



令和7年7月

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1日(火) 現場実習(6/30~7/4)
介護等体験(~2日)
小3遠足 | 11日(金) 中1,3社会体験学習 |
| 2日(水) 高1進路説明会・参観日
高等部情報モラル研修 | 16日(水) 給食終了 |
| 3日(木) 小5宿泊学習(~4日) | 18日(金) 終業式 |
| 4日(金) 中学部 セタ交流(稲美中学校) | 22日(火) 夏季休業開始
夏季教材展示会(~8/1) |
| 8日(火) 介護等体験(~9日)
小4校外学習 | 24日(木) 中学部 入学希望者教育相談① |
| | 28日(月) 中学部 入学希望者教育相談② |

※行事や授業予定は今後変更もあります。変更時は本校HPにてお知らせします。

いなみ野特別支援学校HP

<https://www2.hyogo-c.ed.jp/weblog2/inamino-sn/>

QRコードはコチラ! ⇒



いなみ野の学習活動



小学部

JA 兵庫南の方に来ていただき、トマトの苗植えを行いました。説明をよく聞いて、上手に植えることができました。苗は順調に成長していて収穫ができそうな日も近そうです!



中学部

今年度は工事の関係で活動場所や時間を十分に確保できず、例年のような運動会はありませんが、各学年の体育の授業を参観していただいています。雨天時も多目的室を使い、曲に合わせてパラバルーン演技を練習しました。



高等部

5月、1年生はだんだんと新しい環境にも慣れてきました。忙しくも充実した毎日を過ごしています。2年生は現場実習が始まりの次へのステップを踏み出そうとしています。3年生は楽しい修学旅行を終え、いよいよ進路実現に向けてさらなる成長を目指しています。

ちよつと

ひとやすみ



「ウェルビーイングな学校をつくる一子どもが毎日行きたい、先生が働きたいと思える学校へ」中島晴美 教育開発研究所

“ウェルビーイング”という言葉をご存知でしょうか。

「良い(=well)」+「あり方(=being)」を合わせた言葉で、そこから「持続的な幸せ」を意味します。

この本を書かれたのは、公立小学校の校長先生です。



私はこれまで“ウェルビーイング”について深く考えたことがありませんでした。日々の実践がそこに結びつけば良いという程度で考えてしまっていたのかもしれませんが、作者の中島先生は「SPIRE」や「幸福の4因子」、「心理的安全性」等の理論に基づいて様々な実践を行い、ウェルビーイングな学校を着実に作り上げられています。

その結果、児童が「学校を楽しい」と感じたり、朝食摂取率が上がったり、学力が向上したり、保健室利用率が半減したりしました。

さらに、「ストレスが無い」と答える職員が増えたり、「自分の提供する教育に自信がある」と言う職員が増えたり、職員健康診断で改善項目が増えたりしました。

私が気づきを得た一節には次の言葉があります。

「自分の気持ちを自分の言葉で相手に伝えることは、子どもたちの Relational・Emotional Well-Being (良い人間関係における心理的安全性・充実感や満足感) を高めるために、とても重要です」

「教師は、児童の言語習得の最大の教育環境である」

知的障害のある子どもたちにコミュニケーションの方法を指導・支援することは、生きる力を身に付けるだけでなく、ウェルビーイングにもつながっているのです。

まずは大人が理論に基づいて環境調整し、ウェルビーイング(=良いあり方)を体現し背中子どもに見せていく必要があります。 ※本の掲載については、出版社の承諾を得ています。

支援のタネ



子どもの問題行動に困ったとき、応用行動分析の考え方(ABC分析)が役に立ちます。

まずは問題行動の前後の様子をよく観察します。問題行動の後、その子はどこを見ている

でしょうか。大人の方を見ているなら、「大人の気を引きたい(注目)」が行動の理由かも

かもしれません。例えば、「A:授業が難しい」→「B:離席」→「C:教師に注意されて注目を得る」

というように当てはめて考えることができます。行動の理由がわかれば、どのように支援すべき

か計画を立てることができます。



A: 先行刺激



B: 行動



C: 結果